

菱形池

宇佐神宮境内の中央には景勝的な菱形池があります。池の小さな島々には、神社と能の舞台があり、島々は橋で結ばれています。橋は通常は閉鎖されていますが、池の周囲を散歩すると、藤や蓮の花、菖蒲、紅葉などのきれいな季節の風景が見られます。大きな池には、さまざまな水鳥、亀、色とりどりの鯉が生息しています。境内の他の場所を見る前に鯉へ餌を与えたい人のために、魚の餌の小さな袋を購入することができます。

菱形池の南東の岸には、神聖な御霊水という泉があります。神社の伝説によると、571年に八幡神がその場所で大神比義という男の前に現れ、国の守護者であると宣言しました。それは時に宇佐神宮の歴史の始まりともいわれています。御霊水のある辺りは朱色の柵に囲まれ、鳥居によって示されています。その泉の水は澄んでいて常に湧き出ていると言われており、竹の覆いで保護された3つの石の井戸に水を供給しています。氏子の中には、この水を宗教的なお供え物にするために家へ持ち帰る人もいますが、この水は飲むのには適していないので注意してください。

中央の島にある能舞台は、毎年10月に行われる能楽の公演や、その他の公演に使われています。この舞台の近くには、大工などの職人を守護する神様を祀る木匠祖神社があります。別の島には、水神が祀られている水分神社があります。池の西岸にある絵馬堂は、宇佐神宮の伝説や歴史を描いた絵馬が展示されている建物です。

宇佐神宮境内での昭和の大改修（1932～1941）の際に、菱形池の形を変え、拡大し、現在の形にする工事が行われました。